

# 1. 社会経済環境の状況

## 1-1. 人口等の動向

### (1) 人口・世帯数の推移

#### ①人口・世帯数

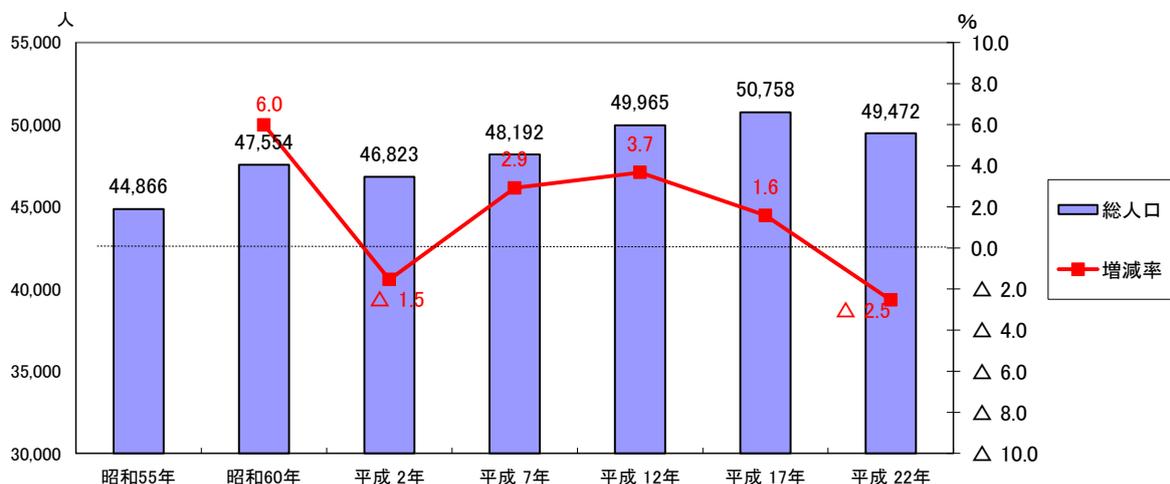
「平成 22 年国勢調査」によれば、本市の人口総数は 49,472 人であり、前回（平成 17 年）調査から 1,286 人、2.5%の減少となっています。一方、世帯数は 19,377 世帯で、81 世帯、0.4%増加しています。高知県全体では、人口は 4.0%、世帯数は 0.8% 減少しています。また、1 世帯当たりの人員は 2.55 人であり、前回調査の 2.63 人より 0.08 人減少しています。

本市の総人口は、平成 2 年の 1.5%減を除き、全体に微増傾向が続いていましたが、平成 22 年は 2.5%減と過去 2 回目の人口減少となっています。

#### ■人口および世帯数の変化

区分		平成17年	平成22年	増減数	増減率
南 国 市	人口総数	50,758 人	49,472 人	△ 1,286 人	△ 2.5 %
	男	24,179 人	23,476 人	△ 703 人	△ 2.9 %
	女	26,579 人	25,996 人	△ 583 人	△ 2.2 %
	世帯数	19,296 世帯	19,377 世帯	81 世帯	0.4 %
	1世帯当たりの人員	2.63 人	2.55 人	△ 0.08 人	△ 3.0 %
高 知 県	人口総数	796,292 人	764,456 人	△ 31,836 人	△ 4.0 %
	男	374,435 人	359,134 人	△ 15,301 人	△ 4.1 %
	女	421,857 人	405,322 人	△ 16,535 人	△ 3.9 %
	世帯数	324,439 世帯	321,909 世帯	△ 2,530 世帯	△ 0.8 %
	1世帯当たりの人員	2.45 人	2.37 人	△ 0.08 人	△ 3.3 %

#### ■南国市の人口推移（単位：人）



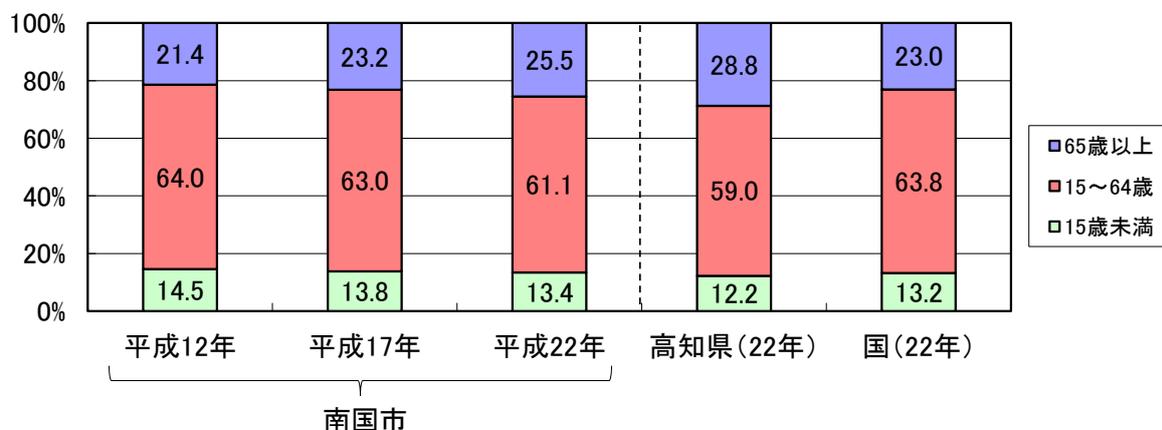
※出典：国勢調査

## ②年齢3区分別人口

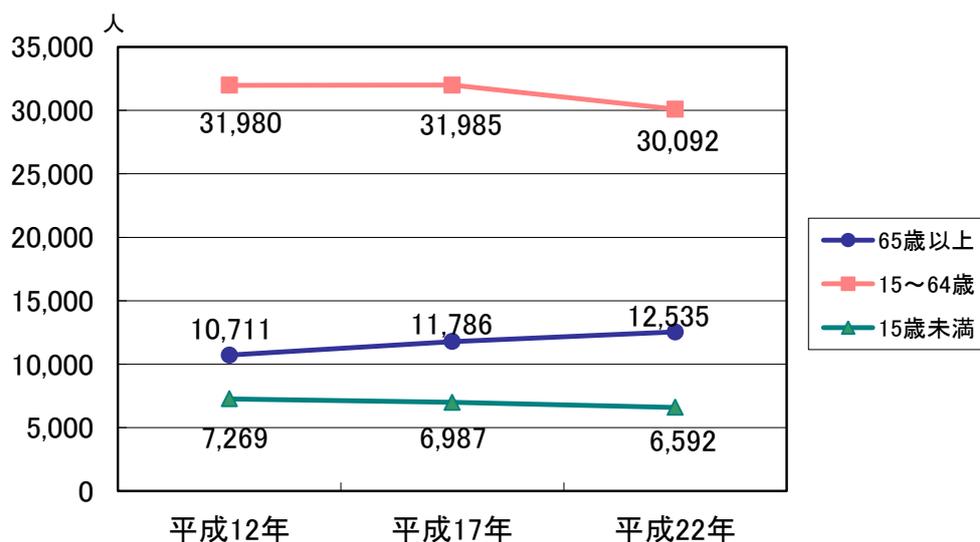
本市の年齢3区分別人口を見ると、平成22年の年少人口(15歳未満)の割合は13.4%、生産年齢人口(15~64歳)が61.1%、高齢者人口(65歳以上)の割合は25.5%です。高齢者人口は生産年齢人口の約0.4倍、年少人口の約1.9倍を占めています。

また、高知県の高齢者人口の割合は28.8%であるのに対し、本市はそれを3.3ポイント下回っていることから、県内との比較では高齢化率は、やや低いことが示されています。ただし、全国平均の23.0%と比べると、2.5ポイント上回っており、高齢化は進んでいます。

### ■年齢3区分別人口の構成



### ■年齢3区分別人口の推移



※出典：国勢調査

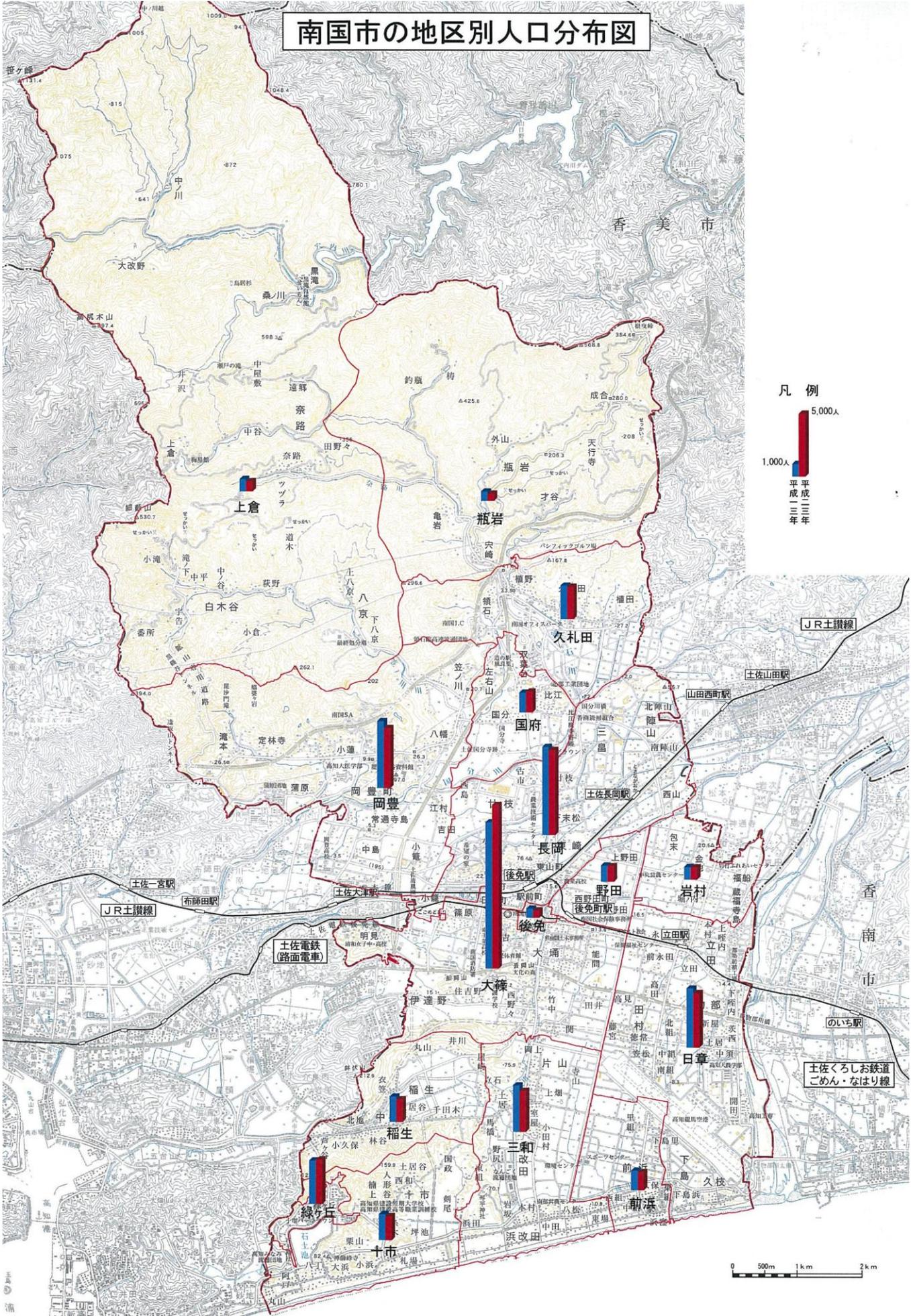
■地区別人口

各年9月末現在

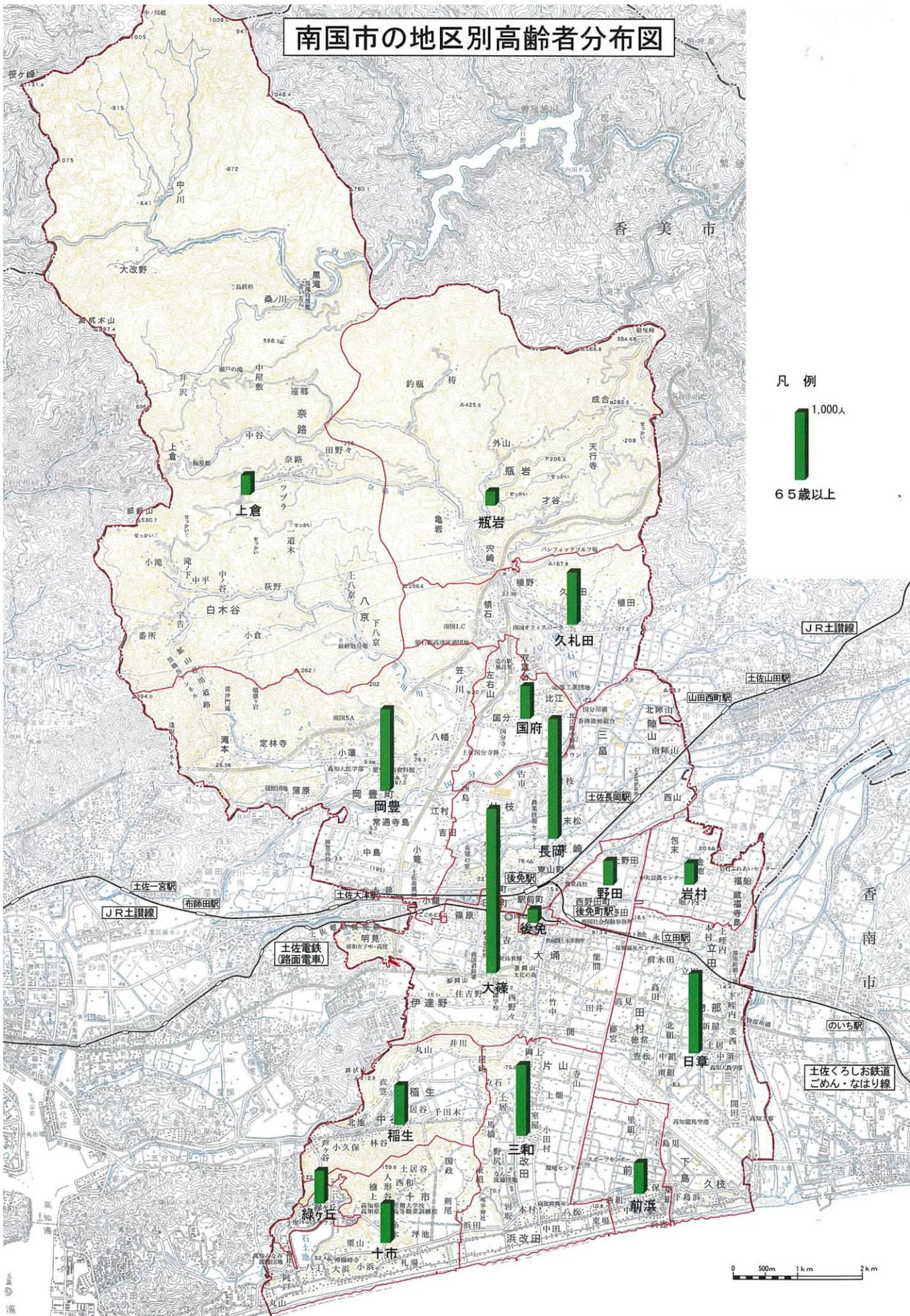
地区名	平成13年	平成18年	平成23年	H23-H18 増減数	H23/H18 増減率	高齢者(65歳以上)	
						(平成23年)	高齢化率
上倉	965	891	789	△ 102	△ 11.4 %	291	36.9%
瓶岩	729	650	568	△ 82	△ 12.6 %	211	37.1%
久礼田	2,675	2,673	2,570	△ 103	△ 3.9 %	772	30.0%
岡豊	5,315	5,070	4,756	△ 314	△ 6.2 %	1,204	25.3%
国府	1,566	1,693	1,655	△ 38	△ 2.2 %	482	29.1%
長岡	7,006	7,153	6,767	△ 386	△ 5.4 %	1,766	26.1%
後免	727	697	565	△ 132	△ 18.9 %	196	34.7%
野田	1,272	1,339	1,240	△ 99	△ 7.4 %	361	29.1%
大篠	11,621	12,580	13,004	424	3.4 %	2,421	18.6%
岩村	1,007	967	958	△ 9	△ 0.9 %	315	32.9%
日章	4,691	4,520	4,313	△ 207	△ 4.6 %	1,175	27.2%
前浜	1,544	1,497	1,412	△ 85	△ 5.7 %	458	32.4%
三和	3,676	3,510	3,237	△ 273	△ 7.8 %	1,046	32.3%
稲生	2,016	1,916	1,791	△ 125	△ 6.5 %	584	32.6%
十市	2,072	1,988	1,895	△ 93	△ 4.7 %	579	30.6%
緑ヶ丘	3,469	3,653	3,533	△ 120	△ 3.3 %	481	13.6%
計	50,351	50,797	49,053	△ 1,744	△ 3.4 %	12,342	25.2%

※出典：住民基本台帳

# 南国市の地区別人口分布図



# 南国市の地区別高齢者分布図



### ③昼夜間人口等

本市の昼夜間人口の推移を見ると（平成7年～17年国勢調査から）、昼間人口、夜間人口（常住人口）とも増加しています。平成17年の昼夜間人口比率は、104.9%であり、県下第1位となっています。また、人口差（昼間人口－常住人口）では、高知市の12,174人に次ぐ2,475人となっています。

就業・通学者数ともに流入が流出を上回っており、人口差の主な要因としては、就業によるもので2,075人となっています。

#### ■昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

（単位：人、％）

	昼間人口			常住人口(夜間人口)			人口差(昼間人口－常住人口)			昼夜間人口比率			昼間人口の増加率	
	平成7年	平成12年	平成17年	平成7年	平成12年	平成17年	平成7年	平成12年	平成17年	平成7年	平成12年	平成17年	H7～H12	H12～H17
高知県計	813,858	811,573	795,109	816,008	812,519	796,163	-2,150	-946	-1,054	99.7	99.9	99.9	-0.28	-2.03
高知市	356,320	362,312	361,080	339,219	347,741	348,906	17,101	14,571	12,174	105.0	104.2	103.5	1.68	-0.34
室戸市	21,074	19,256	17,221	21,430	19,472	17,490	-356	-216	-269	98.3	98.9	98.5	-8.63	-10.57
安芸市	22,581	21,569	20,665	22,377	21,321	20,348	204	248	317	100.9	101.2	101.6	-4.48	-4.19
南国市	49,955	52,122	53,233	48,184	49,960	50,758	1,771	2,162	2,475	103.7	104.3	104.9	4.34	2.13
土佐市	26,978	27,348	27,757	30,685	30,321	30,011	-3,707	-2,973	-2,254	87.9	90.2	92.5	1.37	1.50
須崎市	29,863	28,720	26,621	28,742	27,569	26,039	1,121	1,151	582	103.9	104.2	102.2	-3.83	-7.31
宿毛市	26,750	26,860	25,175	25,919	25,968	24,397	831	892	778	103.2	103.4	103.2	0.41	-6.27
土佐清水市	18,738	17,799	16,797	19,582	18,507	17,278	-844	-708	-481	95.7	96.2	97.2	-5.01	-5.63
四万十市	40,119	39,980	39,486	38,991	38,784	37,917	1,128	1,196	1,569	102.9	103.1	104.1	-0.35	-1.24
香美市	28,187	29,330	28,733	31,076	31,175	30,257	-2,889	-1,845	-1,524	90.7	94.1	95.0	4.06	-2.04
香南市	27,341	28,322	29,587	31,481	32,659	33,541	-4,140	-4,337	-3,954	86.8	86.7	88.2	3.59	4.47

#### ■昼間人口・夜間人口の就業・通学の構成内訳（平成17年）

（単位：人）

	常住地による人口 (夜間人口)	他市町村に 就業	他市町村に 通学	他市町村から 就業	他市町村から 通学	従業地・通学 地による人口 (昼間人口)	人口差 (昼間人口－ 夜間人口)	人口差の要因	
								就業に よるもの	通学に よるもの
	①	②	③	④	⑤	⑥=①-(②+ ③)+(④+⑤)	⑥-①	④-②	⑤-③
高知県計	796,163	84,835	14,641	83,879	14,543	795,109	-1,054	-956	-98
高知市	348,906	22,368	3,144	30,354	7,332	361,080	12,174	7,986	4,188
室戸市	17,490	864	126	661	60	17,221	-269	-203	-66
安芸市	20,348	2,073	332	2,255	467	20,665	317	182	135
南国市	50,758	10,382	1,667	12,457	2,067	53,233	2,475	2,075	400
土佐市	30,011	4,869	1,007	3,123	499	27,757	-2,254	-1,746	-508
須崎市	26,039	2,192	684	3,004	454	26,621	582	812	-230
宿毛市	24,397	1,763	293	2,431	403	25,175	778	668	110
土佐清水市	17,278	885	99	500	3	16,797	-481	-385	-96
四万十市	37,917	2,304	287	3,561	607	39,494	1,577	1,257	320
香美市	30,257	5,770	896	4,068	1,084	28,743	-1,514	-1,702	188
香南市	33,541	8,610	1,550	5,871	359	29,611	-3,930	-2,739	-1,191

※通学には15歳未満も含む

※高知市は、鏡村、土佐山村の2村を平成17年1月に編入合併、平成20年1月に春野町を編入合併

※香美市は、土佐山田町、香北町、物部村の2町1村が平成18年3月に合併

※香南市は、赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村の4町1村が平成18年3月に合併

※四万十市は、中村市、西土佐村の1市1村が平成17年4月に合併

※四万十市、香美市、香南市の常住人口は、統計資料の値を採用

※出典：国勢調査

## (2) 南国市における通勤・通学の流出・流入状況

本市に常住する15歳以上の就業者・通学者における就業・通学先の状況を平成17年国勢調査から見ると、就業・通学者の約6割、すなわち就業者の57.0%、通学者の59.2%が市内で就業・通学しています。一方、他市町村に通勤・通学する就業者・通学者も42.7%おり、その内のほとんどが県内、特に近隣市への通勤・通学です。最も多いのは、高知市であり、就業者の31.2%、通学者の32.5%となっています。

また、本市は、他市町村から通勤・通学で入って来る人が14,357人おり、出る人より2,726人上回っています。特に高知市から9,011人と多く入って来ており、次いで香南市2,253人、香美市1,612人となっています。

### ■南国市における通勤・通学の流出・流入状況（平成17年）

(単位:人)

	南国市常住者の就業先・通学先の市町村						南国市で就業・通学する者の居住市町村					
	総数		15歳以上 就業者		15歳以上 通学者		総数		15歳以上 就業者		15歳以上 通学者	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
	27,480	100.0%	24,118	87.8%	3,362	12.2%	30,201	100.0%	26,193	86.7%	4,008	13.3%
		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%
南国市内	15,727	57.2%	13,736	57.0%	1,991	59.2%	15,727	52.1%	13,736	52.4%	1,991	49.7%
自宅	4,664	17.0%	4,664	19.3%		0.0%	4,664	15.4%	4,664	17.8%		0.0%
自宅外	11,063	40.3%	9,072	37.6%	1,991	59.2%	11,063	36.6%	9,072	34.6%	1,991	49.7%
県内	11,631	42.3%	10,271	42.6%	1,360	40.5%	14,357	47.5%	12,367	47.2%	1,990	49.7%
高知市	8,608	31.3%	7,515	31.2%	1,093	32.5%	9,011	29.8%	7,820	29.9%	1,191	29.7%
香美市	1,162	4.2%	983	4.1%	179	5.3%	1,612	5.3%	1,457	5.6%	155	3.9%
香南市	1,089	4.0%	1,025	4.2%	64	1.9%	2,253	7.5%	1,912	7.3%	341	8.5%
安芸市	236	0.9%	232	1.0%	4	0.1%	295	1.0%	249	1.0%	46	1.1%
室戸市	27	0.1%	27	0.1%	0	0.0%	26	0.1%	20	0.1%	6	0.1%
土佐市	78	0.3%	66	0.3%	12	0.4%	218	0.7%	199	0.8%	19	0.5%
須崎市	39	0.1%	36	0.1%	3	0.1%	71	0.2%	61	0.2%	10	0.2%
大豊町	85	0.3%	85	0.4%	0	0.0%	115	0.4%	92	0.4%	23	0.6%
本山町	39	0.1%	39	0.2%	0	0.0%	51	0.2%	42	0.2%	9	0.2%
土佐町	33	0.1%	33	0.1%	0	0.0%	29	0.1%	26	0.1%	3	0.1%
いの町	88	0.3%	84	0.3%	4	0.1%	302	1.0%	233	0.9%	69	1.7%
芸西村	54	0.2%	54	0.2%	0	0.0%	121	0.4%	85	0.3%	36	0.9%
その他の市町村	93	0.3%	92	0.4%	1	0.0%	253	0.8%	171	0.7%	82	2.0%
他の都道府県	122	0.4%	111	0.5%	11	0.3%	117	0.4%	90	0.3%	27	0.7%
徳島県	15	0.1%	15	0.1%	0	0.0%	19	0.1%	12	0.0%	7	0.2%
香川県	31	0.1%	29	0.1%	2	0.1%	19	0.1%	18	0.1%	1	0.0%
愛媛県	24	0.1%	24	0.1%	0	0.0%	25	0.1%	21	0.1%	4	0.1%
その他の都道府県	52	0.2%	43	0.2%	9	0.3%	54	0.2%	39	0.1%	15	0.4%

※高知市は、春野町を平成20年1月に編入合併

※香美市は、土佐山田町、香北町、物部村の2町1村が平成18年3月に合併

※香南市は、赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村の4町1村が平成18年3月に合併

※出典：国勢調査

### (3) 南国市の将来人口予測

コーホート要因法を用いて本市の将来人口を予測すると、平成28年9月には47,001人に、平成33年9月には44,656人にまで減少する見込みです。平成23年9月と比較すると、平成28年で約2,000人、平成33年で約4,400人の人口減少となります。総人口が減少するにもかかわらず高齢者人口は増加し、高齢化率は平成28年で29.5%、平成33年で31.6%と増加し、高齢化の進行が見込まれます。

#### <コーホート要因法による将来人口予測>

		H18.9.30 (住基人口)			H23.9.30 (住基人口)			H28.9.30 (予測人口)			H33.9.30 (予測人口)			
年齢		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
年少人口	0~4歳	1,151	1,088	2,239	992	959	1,951	934	890	1,824	848	807	1,655	
	5~9	1,208	1,150	2,358	1,105	1,047	2,152	952	923	1,875	897	856	1,753	
	10~14	1,233	1,209	2,442	1,218	1,131	2,349	1,114	1,029	2,143	960	907	1,867	
生産年齢人口	15~19	1,592	1,298	2,890	1,599	1,275	2,874	1,580	1,193	2,773	1,445	1,086	2,531	
	20~24	1,474	1,406	2,880	1,134	1,154	2,288	1,138	1,133	2,271	1,125	1,061	2,186	
	25~29	1,515	1,571	3,086	1,212	1,205	2,417	932	989	1,921	935	971	1,906	
	30~34	1,789	1,784	3,573	1,433	1,467	2,900	1,147	1,125	2,272	882	924	1,806	
	35~39	1,499	1,583	3,082	1,731	1,787	3,518	1,387	1,470	2,857	1,110	1,127	2,237	
	40~44	1,337	1,405	2,742	1,475	1,555	3,030	1,703	1,755	3,458	1,365	1,444	2,809	
	45~49	1,402	1,488	2,890	1,332	1,398	2,730	1,469	1,547	3,016	1,696	1,746	3,442	
	50~54	1,671	1,675	3,346	1,366	1,476	2,842	1,297	1,387	2,684	1,431	1,535	2,966	
	55~59	2,222	2,217	4,439	1,631	1,659	3,290	1,333	1,461	2,794	1,266	1,373	2,639	
	60~64	1,489	1,653	3,142	2,153	2,217	4,370	1,580	1,659	3,239	1,292	1,461	2,753	
高齢者人口	前期	65~69	1,310	1,515	2,825	1,395	1,600	2,995	2,017	2,146	4,163	1,480	1,606	3,086
		70~74	1,239	1,579	2,818	1,193	1,437	2,630	1,271	1,518	2,789	1,837	2,037	3,874
	後期	75~79	1,048	1,584	2,632	1,042	1,485	2,527	1,003	1,351	2,354	1,069	1,427	2,496
		80~84	651	1,170	1,821	774	1,369	2,143	770	1,283	2,053	741	1,167	1,908
		85以上	450	1,142	1,592	568	1,479	2,047	692	1,823	2,515	754	1,988	2,742
総数		24,280	26,517	50,797	23,353	25,700	49,053	22,319	24,682	47,001	21,133	23,523	44,656	

※H18・H23年の住民基本台帳

#### 人口構造の予想推移

	H23.9.30	H28.9.30	H33.9.30
年少人口 (0~14歳)	6,452 13.2%	5,842 12.4%	5,275 11.8%
生産年齢人口 (15~64歳)	30,259 61.7%	27,285 58.1%	25,275 56.6%
高齢者人口 (65歳以上)	12,342 25.2%	13,874 29.5%	14,106 31.6%
前期高齢者	5,625	6,952	6,960
後期高齢者	6,717	6,922	7,146

※コーホート要因法とは、各コーホートについて、「自然増減」(出生と死亡)および「純移動」(転出入)という二つの「人口変動要因」それぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法です。

(コーホート…同じ年(または同じ期間)に生まれた人々の集団)

## 1-2. 産業の動向

### ①産業別就業人口

平成 17 年国勢調査から、本市の産業別就業人口を見ると、第 1 次産業が就業人口の 14.2%を占め、高知県の 12.7%を上回っています。

それに対して、第 3 次産業では、高知県の 66.9%に対して、64.3%とやや下回っています。

### ■産業別就業者数（平成 17 年）

区分	総数(人)	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
		人口(人)	率(%)	人口(人)	率(%)	人口(人)	率(%)
高知県	370,395	47,198	12.7%	71,144	19.2%	247,648	66.9%
高知市	159,354	5,648	3.5%	27,333	17.2%	122,588	76.9%
南国市	24,118	3,431	14.2%	4,929	20.4%	15,499	64.3%
香美市	14,394	3,022	21.0%	2,883	20.0%	8,455	58.7%
香南市	16,794	3,532	21.0%	3,271	19.5%	9,960	59.3%

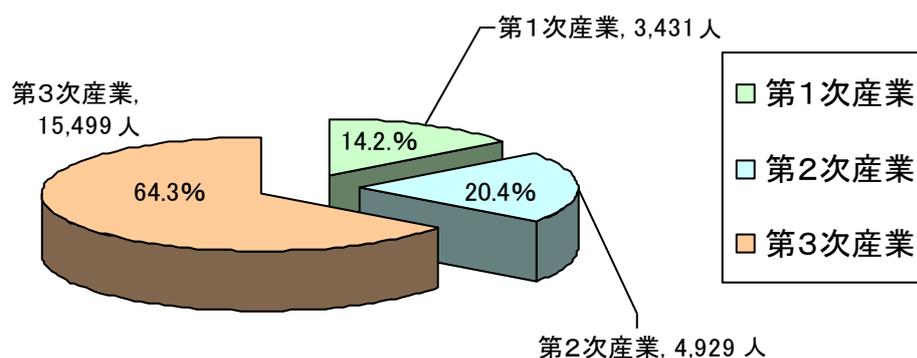
※高知市は、春野町を平成 20 年 1 月に編入合併

※香美市は、土佐山田町、香北町、物部村の 2 町 1 村が平成 18 年 3 月に合併

※香南市は、赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村の 4 町 1 村が平成 18 年 3 月に合併

※出典：国勢調査

### ■南国市の産業別就業者数・割合

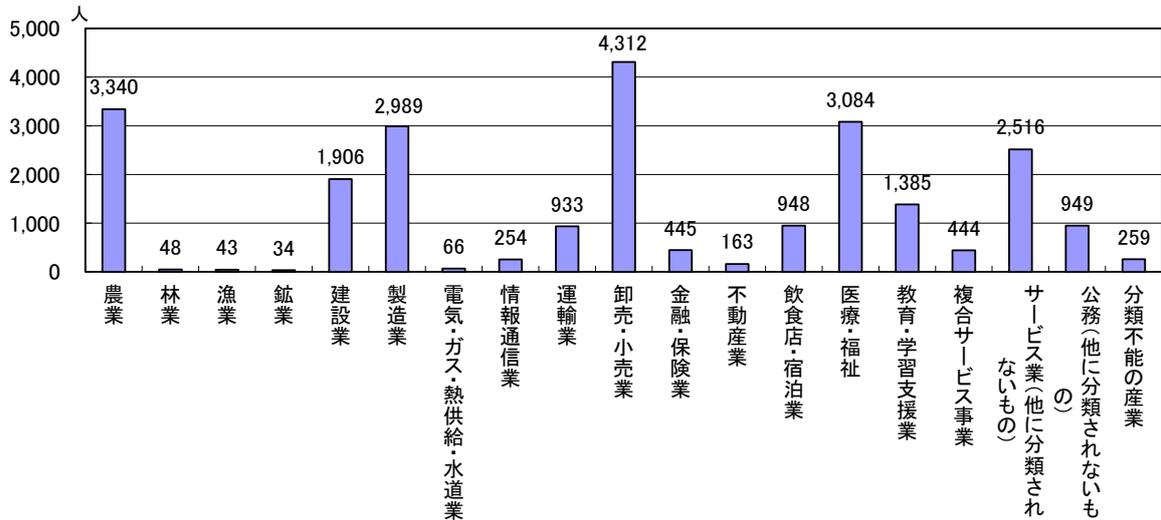


※出典：高知県統計資料（平成 17 年国勢調査）

## ②産業大分類別就業者数

平成17年国勢調査から、産業大分類別就業者数を整理すると、本市で最も就業者数が多いのは、卸売・小売業の4,312人であり、第2位が農業の3,340人、第3位が医療・福祉の3,084人、第4位が製造業の2,989人であり、これにサービス業、建設業などが続いています。

### ■産業大分類別就業者数



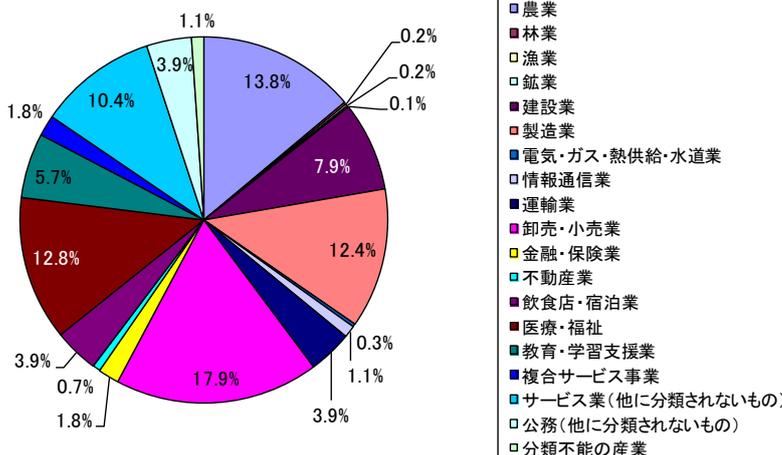
(単位:人)

区分	総数	第1次産業			第2次産業			第3次産業											分類不能の産業	
		農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	複合サービス事業	サービス業(他に分類されないもの)		公務(他に分類されないもの)
高知県	370,395	39,766	2,239	5,193	575	38,073	32,496	1,395	4,017	13,567	67,738	8,415	2,752	19,886	46,822	17,991	7,551	41,986	15,528	4,405
高知市	159,354	5,119	212	317	112	15,657	11,564	656	2,915	6,483	33,746	5,205	2,057	10,135	21,958	8,629	1,830	22,153	6,821	3,785
南国市	24,118	3,340	48	43	34	1,906	2,989	66	254	933	4,312	445	163	948	3,084	1,385	444	2,516	949	259
香美市	14,394	2,921	92	9	18	1,208	1,657	85	108	431	2,190	194	66	556	1,696	733	351	1,439	606	34
香南市	16,794	3,411	18	103	19	1,209	2,043	33	126	554	2,829	223	82	679	1,905	744	321	1,697	767	31

※高知市は、春野町を平成20年1月に編入合併

※香美市は、土佐山田町、香北町、物部村の2町1村が平成18年3月に合併

※香南市は、赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村の4町1村が平成18年3月に合併



※出典：南国市資料  
(平成17年国勢調査)

### ③農業

2005年（平成17年）と2000年（平成12年）の農林業センサス結果の比較により本市の現状を見ると、農家数では、8.4%の減少と高知県全体の6.9%を上回っています。その他の指標においても田の減少面積を除いて、減少率は高知県全体を上回っています。

#### ■2000年・2005年農林業センサス比較

高知県	農家数（戸）			農家人口（人）		経営耕地面積（ha）	うち販売農家			
	計	販売農家	自給農家		うち販売農家人口		計（ha）	田	畑	樹園地
2005年	32,517	21,069	11,448	108,116	78,211	20,481	18,433	14,368	2,053	2,012
2000年	34,919	24,881	10,038	128,298	97,777	23,036	21,114	16,256	2,466	2,392
増減率（%）	△ 6.9	△ 15.3	14.0	△ 15.7	△ 20.0	△ 11.1	△ 12.7	△ 11.6	△ 16.7	△ 15.9

南国市	農家数（戸）			農家人口（人）		経営耕地面積（ha）	うち販売農家			
	計	販売農家	自給農家		うち販売農家人口		計（ha）	田	畑	樹園地
2005年	2,458	1,737	721	8,947	6,899	1,869	1,739	1,575	107	57
2000年	2,684	2,096	588	11,044	8,997	2,123	2,011	1,777	139	95
増減率（%）	△ 8.4	△ 17.1	22.6	△ 19.0	△ 23.3	△ 12.0	△ 13.6	△ 11.4	△ 23.0	△ 40.0

※出典：高知県資料（2005年農林業センサス主要指標一覧表）

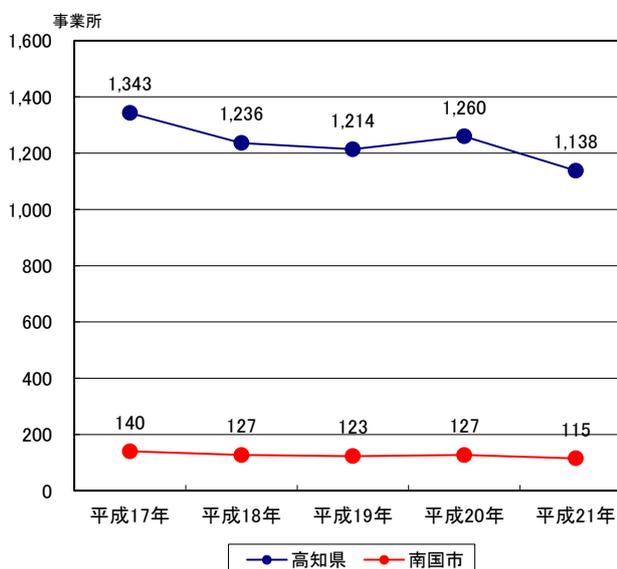
#### ④工業

##### 【事業所数の推移】

工業の状況を見ると、本市の平成21年の事業所数は115事業所です。平成17年から平成21年の推移を見ると、25事業所、17.9%減少しています。高知県全体と比較すると、減少率は若干高くなっています。

事業所数推移（単位：事業所）		
	高知県	南国市
平成17年	1,343	140
平成18年	1,236	127
平成19年	1,214	123
平成20年	1,260	127
平成21年	1,138	115
対17年比	84.7%	82.1%

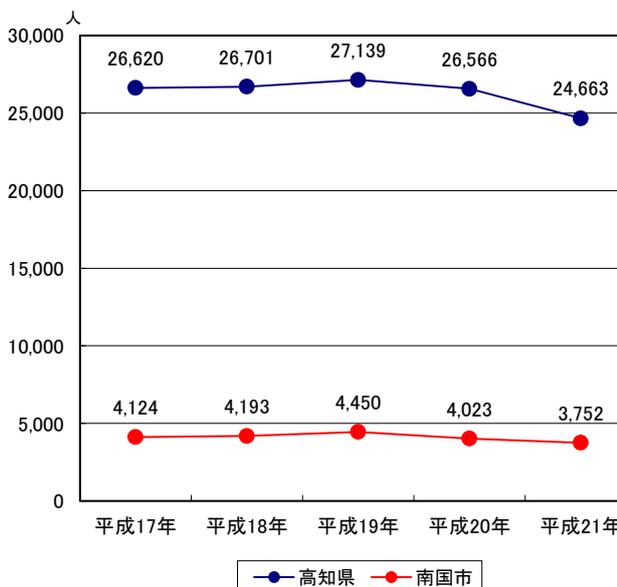
※従業員4人以上の事業所



##### 【従業者数の推移】

製造業従業者数の推移を見ると、平成17年から平成21年にかけて、本市では9.0%減少しており、高知県全体の7.4%を上回っています。

従業者数推移（単位：人）		
	高知県	南国市
平成17年	26,620	4,124
平成18年	26,701	4,193
平成19年	27,139	4,450
平成20年	26,566	4,023
平成21年	24,663	3,752
対17年比	92.6%	91.0%



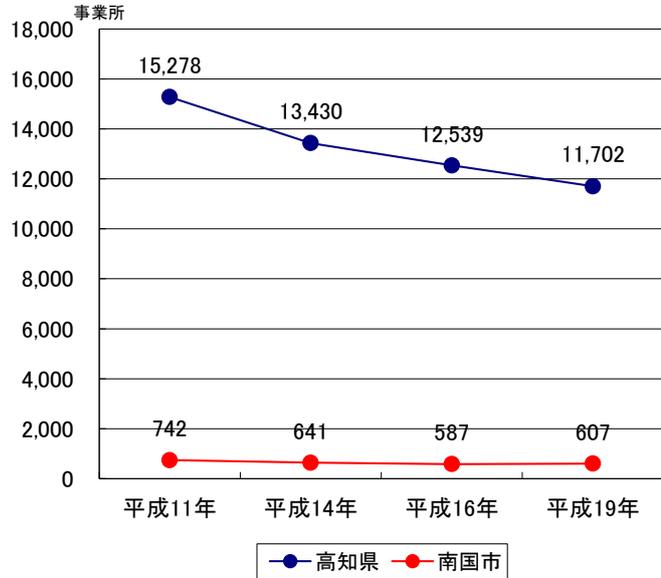
※出典：高知県資料（平成17～21年工業統計調査）

⑤商業

【事業所数の推移】

商業の状況を見ると、本市の平成19年の事業所数は607事業所です。平成11年から平成16年にかけて減少傾向にありましたが、平成19年には若干回復しています。平成11年比で事業所数は18.2%減少していますが、高知県全体では23.4%減少しており、本市の減少率はやや低い傾向にあります。

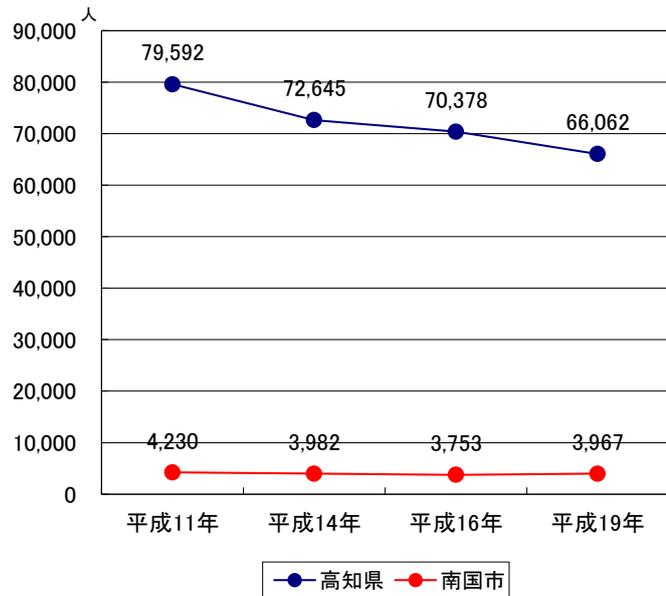
事業所数推移（単位：事業所）		
	高知県	南国市
平成11年	15,278	742
平成14年	13,430	641
平成16年	12,539	587
平成19年	11,702	607
対11年比	76.6%	81.8%



【従業者数の推移】

商業従業者数の推移を見ると、平成11年から平成16年にかけて減少傾向にありましたが、平成19年には若干回復しています。従業者数は、本市では平成11年比6.2%減少していますが、高知県全体より10.8ポイント上回っています。

従業者数推移（単位：人）		
	高知県	南国市
平成11年	79,592	4,230
平成14年	72,645	3,982
平成16年	70,378	3,753
平成19年	66,062	3,967
対11年比	83.0%	93.8%



※出典：高知県資料（平成11～19年商業統計調査）

## 2. 公共交通の現状

### 2-1. 南国市における公共交通の状況

#### (1) 公共交通の概要

市内を運行している公共交通は、次のとおりです。

種 類	運行事業者	路線・駅等
路線バス	市委託運行バス (土佐電ドリームサービス)	空港～植田線 (後免町・後免駅前経由) 医大～久枝線 (後免町経由) ・運行に年間 2,100 万円の行政負担
	高知県交通	<span style="border: 1px solid black;">田井～県庁線</span> (医大病院経由) <span style="border: 1px solid black;">奈路～宇佐線</span> (医大病院・高知駅BT経由: 領石～宇佐線を含む) 蒲原～長浜 (出) 線ほか
	土佐電気鉄道	<span style="border: 1px solid black;">前浜・パークタウン線</span> (県庁前～前浜間) <span style="border: 1px solid black;">いげのき 神母木線</span> (県庁前～高知工科大学間、JA 高知病院・後免駅前経由)
	土佐電ドリームサービス	<span style="border: 1px solid black;">十市後免線</span> (棧橋通～後免町間、高知医療センター経由) ※平成 22 年 4 月 1 日から国庫補助路線として運行 <span style="border: 1px solid black;">安芸線</span> (県庁前～安芸駅間、JA 高知病院・後免町経由) ※平成 20 年 3 月 1 日から国庫補助路線として運行 <span style="border: 1px solid black;">高知医大線</span> (棧橋通～高知医大間) ※平成 22 年 4 月 1 日から国庫補助路線として運行
・高知県交通・土佐電気鉄道・土佐電ドリームサービスの運行する上記路線バスに対し約 1,640 万円 (平成 23 年度) の行政負担 (市委託運行バスは別)		
鉄道	四国旅客鉄道	土讃線 (窪川駅～高知駅～多度津駅間) 〔市内駅〕 後免駅、土佐長岡駅
	土佐くろしお鉄道	ごめん・なはり線 (後免駅～奈半利駅間) 〔市内駅〕 後免駅、後免町駅、立田駅
路面電車	土佐電気鉄道	伊野～はりまや橋～後免町間 〔市内停留所〕 後免町、後免東町、後免中町、 後免西町、東工業前、住吉通、篠原、小籠通
高速バス		高知自動車道を走行ーただし市内に高速バス停なし
航空機	全日空	高知～東京、高知～大阪
	日本航空、JAL エクスプレス	高知～東京
	ジェイエア	高知～福岡

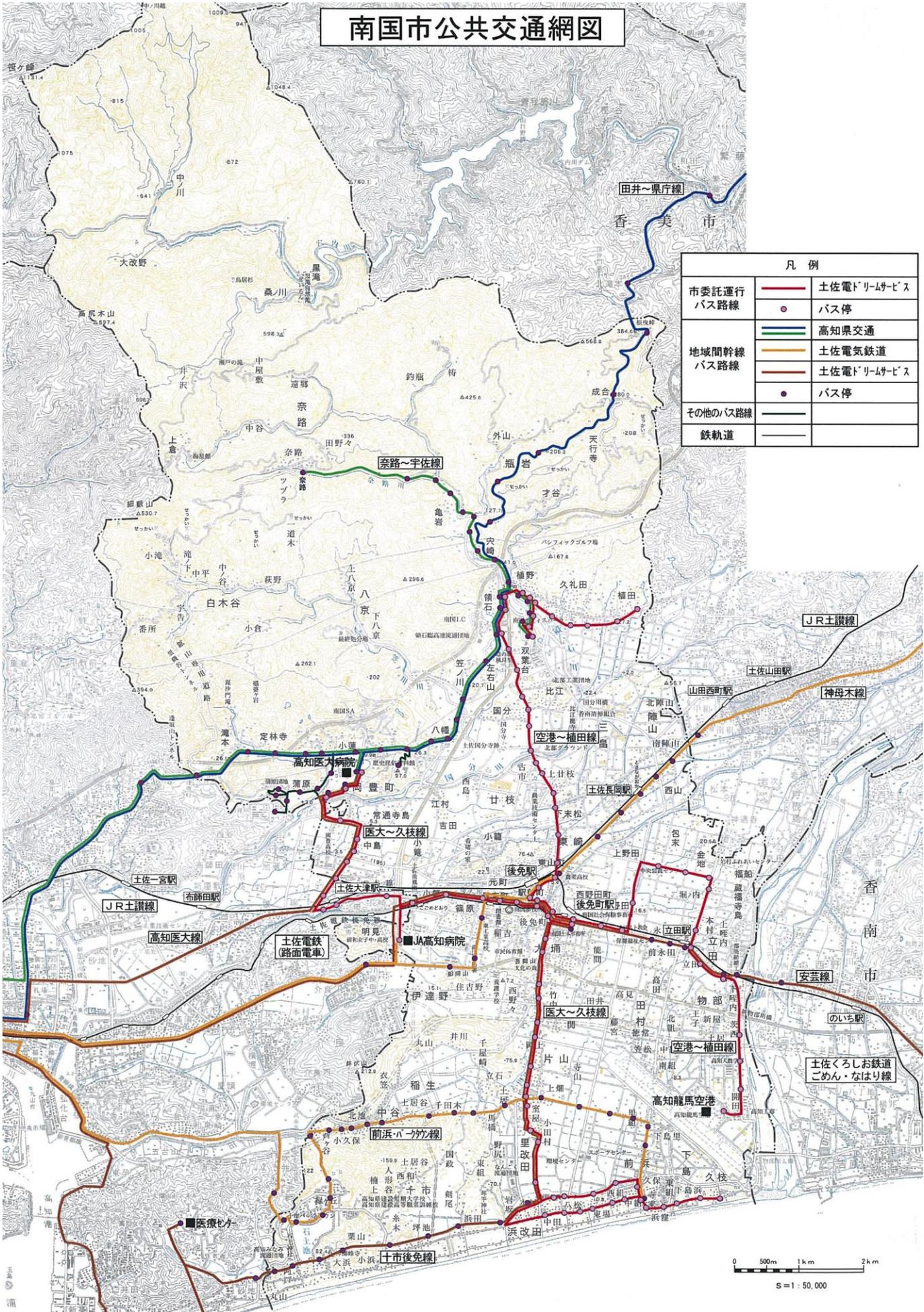
※  囲みのバス路線は「地域間幹線」(25・26 頁参照) に位置づけられている。

#### ○公的交通

スクールバス	久礼田小、奈路小、白木谷小 ・平成 23 年度から各校専用のスクールバスを運行
--------	--

# 南国市公共交通網図

凡例	
市委託運行バス路線	土佐電ドリームサービス
	バス停
地域間幹線バス路線	高知県交通
	土佐電気鉄道
	土佐電ドリームサービス
その他のバス路線	バス停
鉄軌道	



## (2) 市委託運行バスの状況

本市が委託運行しているバス路線（2路線）の状況は、次のとおりです。

路線名	運行区間	運行状況（平成23年4月1日運行ダイヤ）
空港～植田線	空港と植田の区間 （後免町・後免駅前を經由）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空港→植田方面：6便 （土日祝はオフィスパーク内經由なし） 〔空港発〕7:42、9:39、12:54、14:24、17:22 〔後免町発〕11:45</li> <li>・ 植田→空港方面：8便 （土日祝はオフィスパーク内經由なし） 〔植田発〕6:55、8:35、10:27、12:15、13:45、15:15、18:05（3便は後免町止まり） 〔後免町発〕17:05</li> </ul>
医大～久枝線	高知医大と久枝の区間 （後免町を經由）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高知医大→久枝方面：7便（土日祝も同じ） 〔医大発〕8:25、10:25、11:55、13:55、15:05 （1便は後免町止まり） 〔後免町発〕16:05、18:55</li> <li>・ 久枝→高知医大方面：7便（土日祝も同じ） 〔久枝発〕7:25、9:10、11:10、12:45、14:20、16:33 （2便は後免町止まり） 〔後免町発〕10:03</li> </ul>

### ●利用状況

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
空港～植田線	乗客数	21,389	22,087	18,216
	運行回数	6,588	7,898	5,110
	1回当たり乗客数	3.2	2.8	3.6
医大～久枝線	乗客数	29,763	32,433	27,225
	運行回数	5,856	5,656	5,110
	1回当たり乗客数	5.1	5.7	5.3

※事業年度（前年10月～9月）にて集計（例）平成20年度：平成19年10月1日～平成20年9月30日

<空港～植田線>のバス停別乗降人数（平成23年9月8日(木)、11日(日)調査）

● 空港行き

バス停	平成23年9月8日(木)					平成23年9月11日(日)				
	1日 便数	乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数	1日 便数	乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数
1 植田	7	0	0	0	0	7	1	0	0.1	0
2 一本松通	7	1	0	0.1	0	7	0	0	0	0
3 沖ノ土居	7	2	0	0.3	0	7	1	0	0.1	0
4 久礼田学校前	7	2	0	0.3	0	7	2	0	0.3	0
5 農協前	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
6 南国オフィスパーク前	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
9 オフィスパーク入口	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
8 オフィスパーク第一	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
7 オフィスパーク第二	1	2	0	2.0	0	/	/	/	/	/
8 オフィスパーク第一	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
9 オフィスパーク入口	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
10 病院前	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
11 鎮石	7	1	0	0.1	0	7	0	0	0	0
12 鎮石第一	7	0	0	0	0	7	2	0	0.3	0
13 倉の坂	7	1	0	0.1	0	7	0	0	0	0
14 後免分岐	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
15 左右山北	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
16 左右山	7	1	0	0.1	0	7	1	2	0.1	0.3
17 比江上通	7	0	0	0	0	7	1	0	0.1	0
18 国分学校前	7	1	0	0.1	0	7	1	0	0.1	0
19 笠の川通	7	3	0	0.4	0	7	1	0	0.1	0
20 国分寺通	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
21 古市	7	1	0	0.1	0	7	0	0	0	0
22 巨峰園前	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
23 甘枝坂	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
24 へんろ石	7	3	0	0.4	0	7	0	0	0	0
25 鳶ヶ池	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
26 土橋	7	0	0	0	0	7	1	0	0.1	0
27 農業高校通	7	0	1	0	0.1	7	0	0	0	0
28 後免駅前	7	1	3	0.1	0.4	7	2	3	0.3	0.4
29 後免西町	7	1	8	0.1	1.1	7	1	1	0.1	0.1
30 後免中町	7	1	2	0.1	0.3	7	0	1	0	0.1
31 後免東町	7	0	1	0	0.1	7	0	2	0	0.3
32 後免町	8	1	4	0.1	0.5	8	2	3	0.3	0.4
33 野田口	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
34 南国農協連前	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
35 下野田	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
36 包末	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
37 金地	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
38 福船	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
39 堀ノ内	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
40 立田本村北	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
41 立田駅	5	0	1	0	0.2	5	1	2	0.2	0.4
42 日章	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
43 空港通	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
44 茨西	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
45 農学部前	5	0	1	0	0.2	5	0	0	0	0
46 高専前	5	0	1	0	0.2	5	0	0	0	0
47 空港	5	0	0	0	0	5	0	3	0	0.6
合計	7	22	22	3.1	3.1	7	17	17	2.4	2.4

● 植田行き

バス停	平成23年9月8日(木)					平成23年9月11日(日)				
	1日 便数	乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数	1日 便数	乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数
47 空港	5	4	0	0.8	0	5	2	0	0.4	0
46 高専前	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
45 農学部前	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
44 茨西	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
43 空港通	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
42 日章	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
41 立田駅	5	1	0	0.2	0	5	1	1	0.2	0.2
40 立田本村北	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
39 堀ノ内	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
38 福船	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
37 金地	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
36 包末	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
35 下野田	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
34 南国農協連前	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
33 野田口	5	0	0	0	0	5	1	0	0.2	0
32 後免町	6	4	1	0.7	0.2	6	2	0	0.3	0
31 後免東町	6	1	0	0.2	0	6	0	1	0	0.2
30 後免中町	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
29 後免西町	6	4	2	0.7	0.3	6	1	0	0.2	0
28 後免駅前	6	8	2	1.3	0.3	6	5	2	0.8	0.3
27 農業高校通	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
26 土橋	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
25 鳶ヶ池	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
24 へんろ石	6	0	1	0	0.2	6	0	0	0	0
23 甘枝坂	6	0	1	0	0.2	6	0	0	0	0
22 巨峰園前	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
21 古市	6	0	2	0	0.3	6	0	0	0	0
20 国分寺通	6	0	1	0	0.2	6	0	0	0	0
19 笠の川通	6	0	3	0	0.5	6	0	1	0	0.2
18 国分学校前	6	0	1	0	0.2	6	0	1	0	0.2
17 比江上通	6	0	0	0	0	6	0	1	0	0.2
16 左右山	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
15 左右山北	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
14 後免分岐	6	0	1	0	0.2	6	0	0	0	0
13 倉の坂	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
12 鎮石第一	6	0	0	0	0	6	0	1	0	0.2
11 鎮石	6	0	1	0	0.2	6	0	0	0	0
10 病院前	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
9 オフィスパーク入口	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
8 オフィスパーク第一	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
7 オフィスパーク第二	1	0	1	0	1.0	/	/	/	/	/
8 オフィスパーク第一	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
9 オフィスパーク入口	1	0	0	0	0	/	/	/	/	/
6 南国オフィスパーク前	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
5 農協前	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
4 久礼田学校前	6	0	2	0	0.3	6	0	1	0	0.2
3 沖ノ土居	6	0	3	0	0.5	6	0	2	0	0.3
2 一本松通	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
1 植田	6	0	0	0	0	6	0	1	0	0.2
合計	6	22	22	3.7	3.7	6	12	12	2.0	2.0

※調査：土佐電ドリームサービス

<医大～久枝線>のバス停別乗降人数（平成23年9月8日(木)、11日(日)調査）

●久枝行き

バス停	1日 便数	平成23年9月8日(木)				平成23年9月11日(日)			
		乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数	乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数
1 高知医大	5	12	0	2.4	0	6	0	1.2	0
2 小蓮橋	5	0	0	0	0	1	0	0.2	0
3 小山橋	5	0	0	0	0	0	0	0	0
4 ひまわり幼稚園前	5	0	0	0	0	0	0	0	0
5 中島	5	2	0	0.4	0	0	0	0	0
7 沖	5	0	0	0	0	0	0	0	0
8 岡豊高校前	5	0	0	0	0	0	0	0	0
9 鉄工団地	5	0	0	0	0	0	0	0	0
10 児童センター通	5	0	0	0	0	0	0	0	0
11 大津領石通	5	1	0	0.2	0	0	0	0	0
12 大津駅前	5	1	0	0.2	0	0	0	0	0
13 長崎北	5	0	0	0	0	0	0	0	0
14 JA高知病院	1	3	1	3	1	0	0	0	0
15 小籠通	1	0	0	0	0	0	0	0	0
16 篠原	5	0	0	0	0	0	0	0	0
17 住吉通	5	0	0	0	0	0	0	0	0
18 東工業前	5	0	1	0	0.2	0	0	0	0
19 後免西町	5	1	2	0.2	0.4	1	0	0.2	0
20 後免中町	5	0	0	0	0	0	0	0	0
21 後免東町	5	0	0	0	0	0	0	0	0
22 後免町	7	8	11	1.1	1.6	4	7	0.6	1
21 後免東町	6	0	0	0	0	1	0	0.2	0
24 南国警察署前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
25 大篠農協前	6	0	2	0	0.3	0	0	0	0
26 大徳寺通	6	7	0	1.2	0	2	0	0.3	0
27 竹中	6	0	2	0	0.3	0	1	0	0.2
28 香長中学校通	6	0	0	0	0	0	1	0	0.2
29 片山	6	0	4	0	0.7	0	0	0	0
30 公民館前	6	0	1	0	0.2	0	0	0	0
31 セイレイ工業前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
32 里改田	6	0	0	0	0	0	0	0	0
33 郵便局前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
34 小田村	6	0	0	0	0	0	0	0	0
35 三和小学校前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
36 流通センター通	6	0	0	0	0	0	0	0	0
37 浜改田通	6	0	2	0	0.3	0	0	0	0
44 八松通	4	0	0	0	0	0	0	0	0
45 中の丁通	4	0	0	0	0	0	0	0	0
46 境目通	4	0	0	0	0	0	0	0	0
38 浜改田	2	0	0	0	0	0	0	0	0
39 八松	2	0	0	0	0	0	3	0	1.5
40 製材所前	2	0	0	0	0	0	0	0	0
41 中の丁	2	0	0	0	0	0	0	0	0
42 境目	2	0	0	0	0	0	0	0	0
43 伊都多神社前	2	0	0	0	0	0	0	0	0
48 前浜	4	0	2	0	0.5	0	1	0	0.3
49 浜通	6	0	2	0	0.3	0	1	0	0.2
50 前浜車庫	6	0	1	0	0.2	0	0	0	0
51 浜窪	6	0	0	0	0	0	0	0	0
52 切戸	6	0	0	0	0	0	0	0	0
53 久枝西町	6	0	1	0	0.2	0	1	0	0.2
54 久枝	6	0	3	0	0.5	0	0	0	0
合計	7	35	35	5.0	5.0	15	15	2.1	2.1

●医大行き

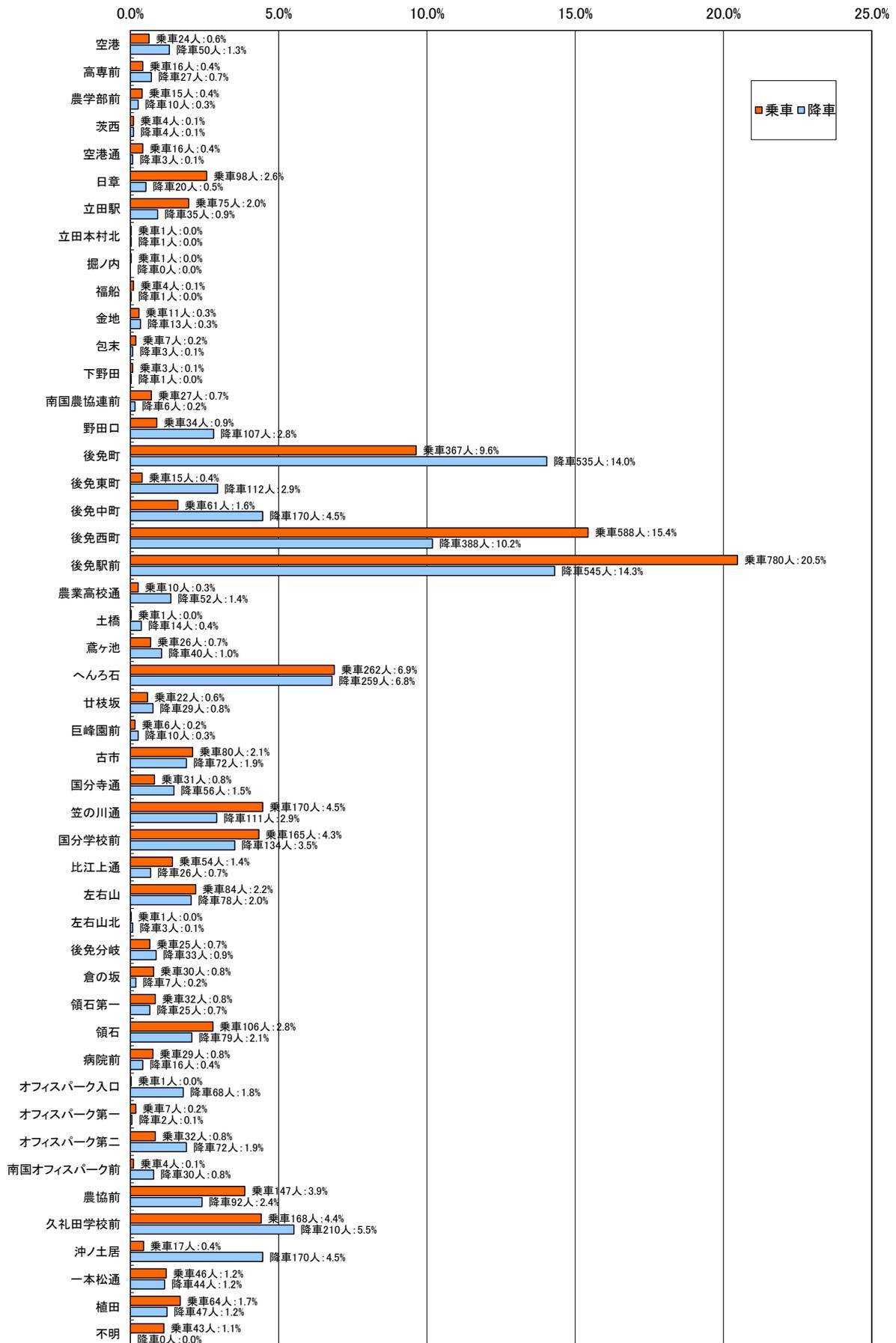
バス停	1日 便数	平成23年9月8日(木)				平成23年9月11日(日)			
		乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数	乗車 人数 合計	降車 人数 合計	1便当 乗車 人数	1便当 降車 人数
54 久枝	6	4	0	0.7	0	2	0	0.3	0
53 久枝西町	6	0	0	0	0	0	0	0	0
52 切戸	6	0	0	0	0	0	0	0	0
51 浜窪	6	0	0	0	0	0	0	0	0
50 前浜車庫	6	1	0	0.2	0	1	0	0.2	0
49 浜通	6	3	0	0.5	0	5	0	0.8	0
48 前浜	6	0	0	0	0	0	0	0	0
43 伊都多神社前	2	1	0	0.5	0	1	0	0.5	0
42 境目	2	0	0	0	0	0	0	0	0
41 中の丁	2	0	0	0	0	2	0	1.0	0
40 製材所前	2	0	0	0	0	0	0	0	0
39 八松	2	0	0	0	0	0	0	0	0
38 浜改田	2	3	1	1.5	0.5	0	0	0	0
48 前浜	5	1	0	0.2	0	0	0	0	0
46 境目通	5	0	0	0	0	1	0	0.2	0
45 中の丁通	5	0	0	0	0	0	0	0	0
44 八松通	5	0	0	0	0	0	0	0	0
37 浜改田通	6	2	0	0.3	0	2	0	0.3	0
36 流通センター通	6	0	0	0	0	0	0	0	0
35 三和小学校前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
34 小田村	6	0	0	0	0	0	0	0	0
33 郵便局前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
32 里改田	6	0	1	0	0.2	2	1	0.3	0.2
31 セイレイ工業前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
30 公民館前	6	1	0	0.2	0	1	0	0.2	0
29 片山	6	2	0	0.3	0	0	0	0	0
28 香長中学校通	6	0	0	0	0	0	0	0	0
27 竹中	6	0	1	0	0.2	0	0	0	0
26 大徳寺通	6	1	4	0.2	0.7	2	6	0.3	1.0
25 大篠農協前	6	1	0	0.2	0	0	0	0	0
24 南国警察署前	6	0	0	0	0	0	0	0	0
21 後免東町	6	0	2	0	0.3	0	2	0	0.3
22 後免町	7	11	8	1.6	1.1	2	5	0.3	0.7
21 後免東町	5	0	0	0	0	0	1	0	0.2
20 後免中町	5	0	0	0	0	0	1	0	0.2
19 後免西町	5	1	1	0.2	0.2	0	0	0	0
18 東工業前	5	0	0	0	0	0	2	0	0.4
17 住吉通	5	0	0	0	0	0	0	0	0
16 篠原	5	0	0	0	0	0	0	0	0
15 小籠通	2	0	0	0	0	0	0	0	0
14 JA高知病院	2	1	1	0.5	0.5	0	0	0	0
13 長崎北	5	0	0	0	0	0	0	0	0
12 大津駅前	5	0	0	0	0	0	1	0	0.2
11 大津領石通	5	2	0	0.4	0	0	0	0	0
10 児童センター通	5	0	0	0	0	0	0	0	0
9 鉄工団地	5	0	0	0	0	0	0	0	0
8 岡豊高校前	5	0	0	0	0	0	0	0	0
7 沖	5	0	0	0	0	0	0	0	0
5 中島	5	0	1	0	0.2	0	0	0	0
4 ひまわり幼稚園前	5	0	1	0	0.2	0	0	0	0
3 小山橋	5	0	0	0	0	0	0	0	0
2 小蓮橋	5	0	0	0	0	0	0	0	0
1 高知医大	5	0	14	0	2.8	0	2	0	0.4
合計	7	35	35	5.0	5.0	21	21	3.0	3.0

※調査：土佐電ドリームサービス



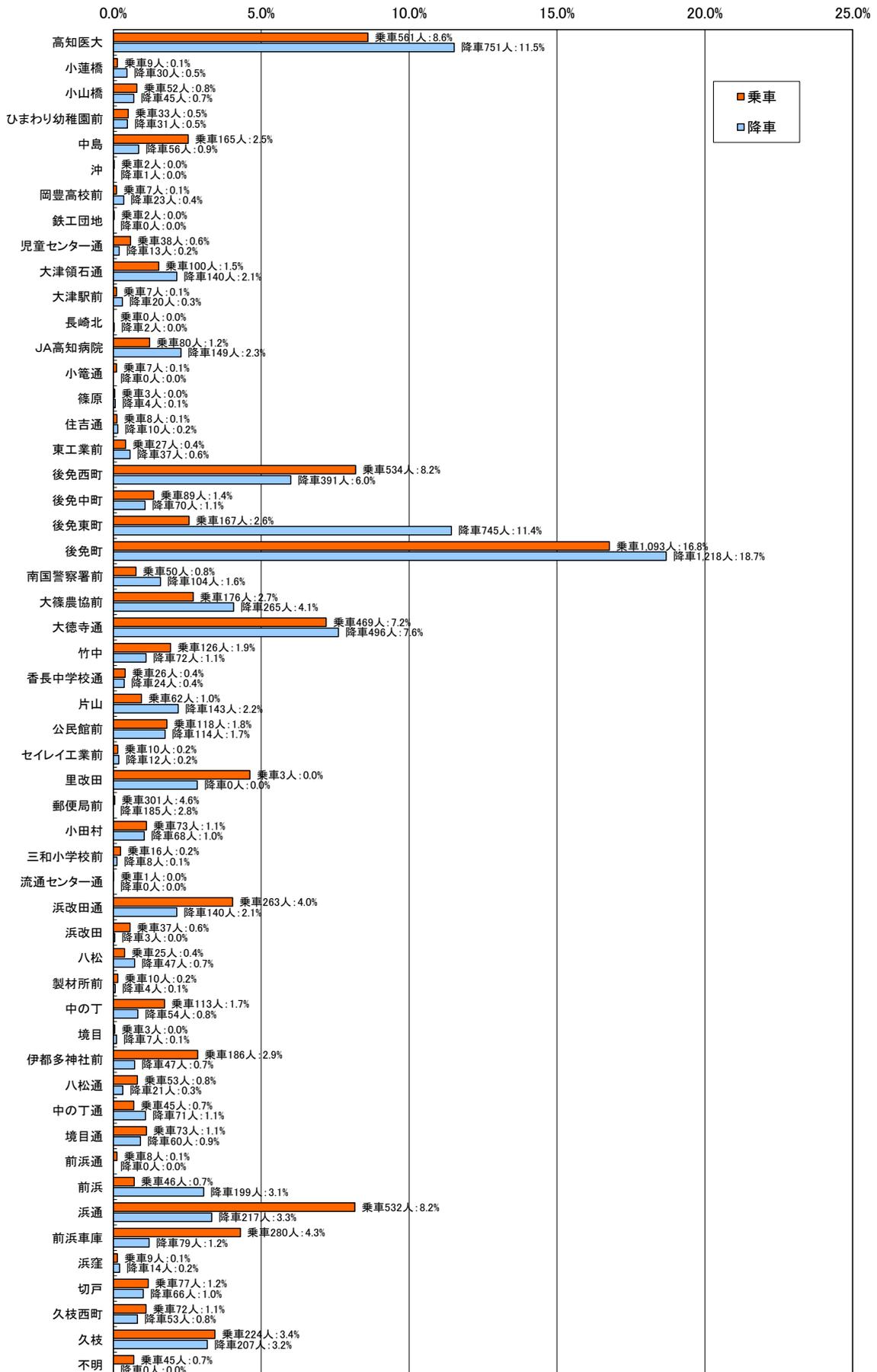


<空港～植田線>のバス停別乗降割合（平成23年4月1日～10月31日・ICカード集計）



※調査：土佐電ドリームサービス

＜医大～久枝線＞のバス停別乗降割合（平成23年4月1日～10月31日・ICカード集計）



※調査：土佐電ドリームサービス

### (3) 路線バスの状況

#### ●高知県交通の路線バス利用状況

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
田井～県庁線	乗客数	84,479	86,861	88,698
	運行回数	5,856	5,840	5,840
	1回当たり乗客数	14	15	15
奈路～宇佐線	乗客数	31,251	35,344	35,751
	運行回数	1,722	1,701	1,715
	1回当たり乗客数	18	21	21
領石～宇佐線	乗客数	96,812	106,705	112,329
	運行回数	6,096	6,084	6,080
	1回当たり乗客数	16	18	18

#### ●土佐電ドリームサービスの路線バス利用状況

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
十市後免線	乗客数	45,360	34,745	67,149
	運行回数	5,376	4,614	4,856
	1回当たり乗客数	8.4	7.5	13.8
安芸線	乗客数	181,461	163,241	136,397
	運行回数	9,359	8,760	8,752
	1回当たり乗客数	19.4	18.6	15.6
高知医大線	乗客数	13,531	13,244	43,689
	運行回数	3,661	3,651	4,382
	1回当たり乗客数	3.7	3.6	10.0

※十市後免線と高知医大線の平成22年度乗客数の大幅な伸びは、高知市内を運行している路線と合併したため。

※事業年度（前年10月～9月）にて集計（例）平成20年度：平成19年10月1日～平成20年9月30日

## 2-2. 公共交通空白地等の検討対象地区に関する路線バスの状況

市北部の中山間地域に存在する公共交通空白地・不便地の検討対象地区の近くを運行しているバス路線の状況は、次のとおりです。

田井～県庁線と奈路～宇佐線は「地域間幹線」に位置づけられており、その路線のバス停に接続させることにより「フィーダー路線」の運行検討が今後想定されます。下表より領石出張所バス停において1日当たり上り15便、下り14便、また白木谷通バス停において1日当たり上り19便、下り18便とかなりの便数が運行されています。

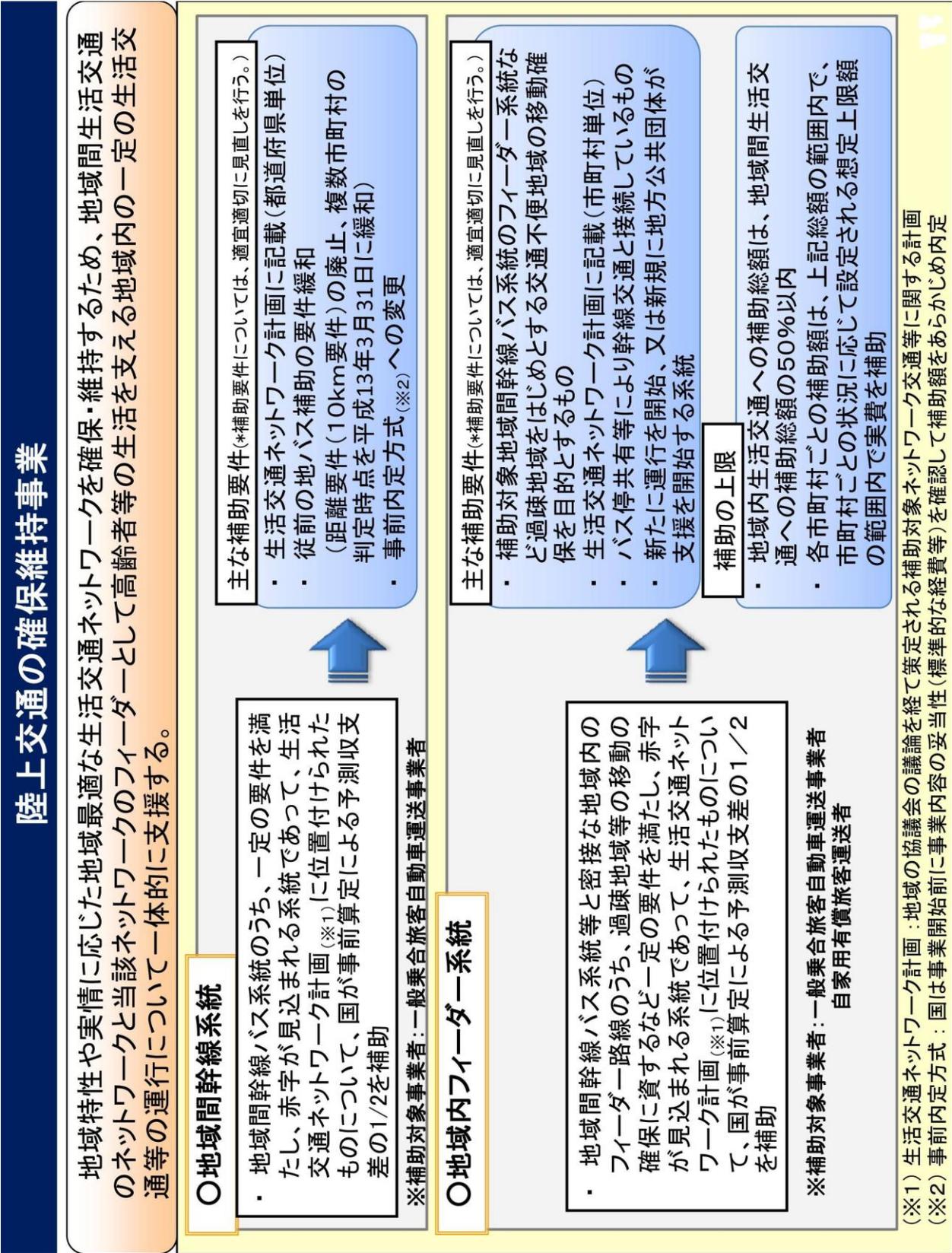
※「地域間幹線」および「フィーダー路線」については25～29頁を参照

路線名	運行区間	運行状況（平成23年10月1日ダイヤ改正）
田井～県庁線 (地域間幹線)	土佐町田井と県庁前の区間 (大杉駅・領石・医大病院・高知駅B Tを經由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田井→県庁前方面：7便（土日祝も同じ） 〔領石出張所発〕7:00、7:50、9:13、10:13、12:15、13:53、16:55 〔白木谷通発〕7:03、7:53、9:16、10:16、12:18、13:56、16:58</li> <li>・県庁前→田井方面：7便（土日祝も同じ） 〔白木谷通発〕9:03、11:03、13:13、14:44、15:48、16:58、18:43 〔領石出張所発〕9:07、11:07、13:17、14:48、15:52、17:02、18:47</li> </ul>
奈路～宇佐線 (地域間幹線)	奈路と宇佐の区間 (領石・医大病院・高知駅B Tを經由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈路→宇佐方面：4便 (土日祝運休、1便は医大病院經由なし) 〔奈路発〕6:35、8:00、12:35、19:00 〔領石出張所発〕6:43、8:08、12:43、19:08 〔白木谷通発〕6:46、8:11、12:46、19:11</li> <li>・宇佐→奈路方面：3便（土日祝運休） 〔白木谷通発〕7:29、11:47、18:24 〔領石出張所発〕7:33、11:51、18:28 〔奈路着〕7:41、11:59、18:36</li> <li>・領石→奈路方面：1便（土日祝運休） 〔領石出張所発〕6:24 〔奈路着〕6:32</li> </ul>
	領石と宇佐の区間 (医大病院・高知駅B Tを經由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領石→宇佐方面：4便（土日祝は10便） 〔領石出張所発〕6:15、7:10、10:40、15:40 〔白木谷通発〕6:18、7:13、10:43、15:43</li> <li>・宇佐→領石方面：4便（土日祝は10便） 〔白木谷通発〕10:12、15:12、16:32、20:54 〔領石出張所着〕10:16、15:16、16:36、20:58</li> </ul>
	南国オフィスパークと宇佐の区間 (医大病院・高知駅B Tを經由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南国オフィスパーク→宇佐方面：4便 (土日祝運休) 〔白木谷通発〕9:31、11:31、14:41、17:56</li> <li>・宇佐→南国オフィスパーク方面：4便 (土日祝運休) 〔白木谷通発〕8:07、8:38、14:07、17:22</li> </ul>

### 3. 上位計画・関連計画等の整理

#### 3-1. 国の制度

#### ●地域公共交通確保維持改修事業（国土交通省、平成23年12月5日改正）



## 補助対象とする地域間幹線系統の要件

### ○従前の地バス補助からの主な変更点

- ・複数市町村の判定時点を平成13年3月31日に緩和
- ・距離要件(10km以上)の廃止
- ・補助金額の事前内定方式への変更に伴い、輸送量、赤字要件については、運行終了後の実績値による判断から運行開始前に内定する予測値による判断に変更
- ・必要なサービスを効果的・効率的に確保維持するための協議会による実質的な議論を重視
- ・補助要件については適時適切に見直すものであること

### 具体的な要件

- ① 路線定期運行であること(補助対象事業者は一般乗合旅客自動車運送事業者)
- ② 複数市町村にまたがる系統であること。(ただし、要件成否は、平成13年3月31日における市町村の状態に応じて決定。)
- ③ 都道府県庁所在地、広域行政圏の中心市町村、又は広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されていると都道府県協議会が認めた市町村への需要に対応して設定される系統であること。
- ④ 1日当たりの計画運行回数が3回以上のももの。ただし、都道府県協議会が認めた場合は、平日1日当たりの計画運行回数が3回以上のもものとする。
- ⑤ 輸送量が15人～150人/日と見込まれること。(既存系統であって、2ヶ年度連続して実績が15人未満/日又は150人超/日のものは除く。)
- ⑥ 経常赤字が見込まれること。(既存系統であって、過去2ヶ年度連続して経常黒字となった運行系統は除く。)
- ⑦ 補助対象期間の末日(9月30日)において引き続き運行される予定の系統であること。(補助対象期間中に再編等を行う場合に、その30日前までに生活交通ネットワーク計画の認定又は変更認定を受けた場合に限る、同一の補助対象系統が継続しての運行と取り扱う。)
- ⑧ 都道府県主催、関係市町村の参加する協議会における協議を経て、生活交通ネットワーク計画に確保・維持が必要な運行系統として記載されていること。  
\* 関係市町村は、地域間幹線路線が、地域間輸送機能と地域内輸送機能の両面を担っている観点から議論に参画するものとする。
- ⑨ 生活交通ネットワーク計画の策定にあたっては、住民や利用者、利害関係者の意見を反映させる観点から、当事者の協議会への参加、アンケート、ヒアリング、公聴会又はパブリックコメント等のいずれかの手順を経ること。
- ⑩ 運送予定者が企画競争その他これに準ずる競争性のある方法により選定されていること。

## 補助対象とする地域内ファイダーシステムの要件

### ○主な要件

- ・「補助対象地域間幹線バスシステムのファイダーシステム」または「交通不便地域における地域間交通ネットワークのファイダーシステム」  
： 補助対象地域間バスシステムを補完するものであること、または、過疎地域など交通不便地域の移動確保を目的とするものであること
- ・幹線アクセス性： 補助対象地域間幹線バスシステム等へのアクセス機能を有するものであること
- ・サービスクラス性： 新たに運行、または、公的支援を受けるものであること
- ・公共性： 公的支援がなければ確保維持が困難なものであること
- ・地域の合意： 地域の協議会による議論を経た計画に基づき実施されるものであること
- ・効率的・効果的なサービスの確保： 品質・価格・企画等を踏まえて選定予定者が選定されること

### 具体的な要件

1. 路線定期運行、路線不定期運行若しくは区域運行又は市町村運営有償運送(交通空白輸送に限る)若しくは過疎地有償運送(乗合旅客の運送に限る。)であること。(補助対象事業者は一般乗合旅客自動車運送事業者及び自家用有償旅客運送者。)
2. 以下の(1)、(2)のいずれかの要件を満たす系統であること。
  - (1) 補助対象地域間幹線バスシステムのファイダーシステム(注1)であること。(政令市、中核市及び特別区(以下、「政令市等」という。)が専らその運行を支援するもの及びその運行区域のすべてが政令市等の区域内であるものを除く。)
  - (2) 交通不便地域における地域間交通ネットワーク(注2)のファイダーシステムであること。(①または②であること。)
    - ① 過疎地域等(※)における地域間交通ネットワークのファイダーシステムであること。  
※ 過疎地域等：過疎地域自立促進特別措置法に基づき過疎地域、過疎地域とみなされる市町村、過疎地域とみなされる区域を含む。)、離島振興法に基づき離島振興対策実施地域、半島振興法に基づき半島振興対策実施地域、山村振興法に基づき振興山村、奄美群島振興特別措置法に基づき奄美群島、小笠原諸島振興特別措置法に基づき小笠原諸島及び沖繩振興特別措置法に基づき沖繩県の区域
    - ② 半径1km以内にバスの停留所、鉄軌道駅、海港及び空港が存しない集落、市街地その他の交通不便地域として地方運輸局長等が指定する地域の住民等の移動確保のための地域間交通ネットワークのファイダーシステムであること  
(注1)ファイダーシステムとは、バスの停留所、鉄軌道駅、海港及び空港において、地域間交通ネットワークと接続(注3)する系統をいう。  
(注2)地域間交通ネットワークとは、地域間バス系統、鉄軌道路線、海港及び空港との近接・共有、乗り継ぎ割引の設定など、乗り継ぎ円滑化のための(注3)接続とは、バス停留所相互又はバス停留所と鉄軌道駅、海港又は空港との近接・共有、乗り継ぎに適用したダイヤの設定、乗り継ぎ円滑化のためのいずれかの措置が講じられていることをいう。
3. 運行内容について、効率的・効果的運行のための「コミュニティバスの導入に関するガイドライン」なども踏まえ、地域における既存の交通ネットワーク及び生活交通ネットワーク計画の地域間幹線系統に係る部分の記載との調整・整合が図られていること。
4. 新たに運行を開始する系統、又は新規に地方公共団体が支援を開始する系統、平成23年度以降に地域内ファイダーシステムに係る国庫補助を受けたことがある系統。
5. 経常赤字が見込まれること。(既存系統であって、過去2か年度連続して経常赤字となった運行系統は除く。)
6. 補助対象期間の末日(9月30日)において引き続き運行される予定の系統であること。(再編等を行う場合は30日前までにネットワーク計画の変更及び認定が必要)
7. 生活交通ネットワーク計画に確保又は維持が必要な運行系統として記載されていること。
8. 生活交通ネットワーク計画の策定にあたっては、住民や利用者、利害関係者の意見を反映させる観点から、当事者の協議会への参加、アンケート、ヒアリング、公聴会又はパブリックコメント等のいずれかの手順を経ること。
9. 選定予定者が企画競争その他これに準ずる競争性のある方法により選定されていること。

## 補助対象とする地域内ファイダーシステムの要件(イメージ)

### 市町村ごとの国庫補助額

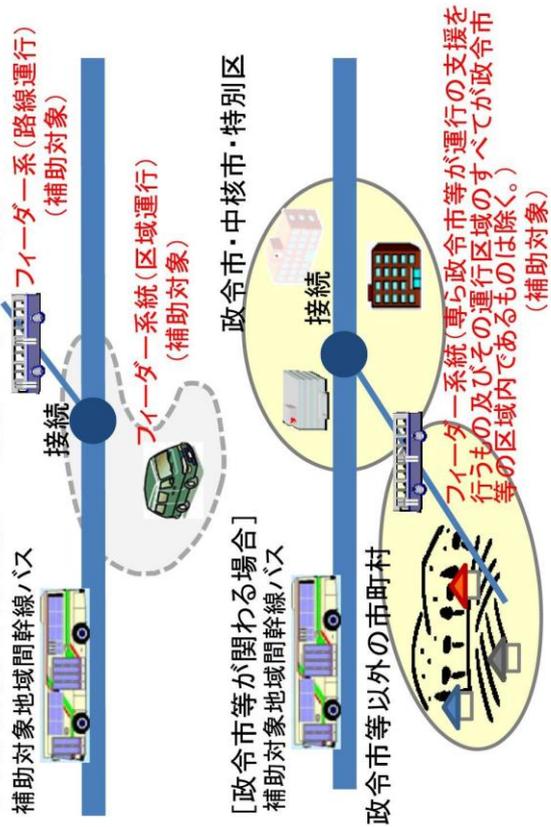
各補助対象市町村毎の国庫補助金の交付額は、各補助対象市町村の地域内ファイダー系統に係る補助対象経費合計額の1/2と、各補助対象市町村毎に算定される国庫補助上限定額の、いずれか少ない方の額以内の額とする。

### 補助対象経費

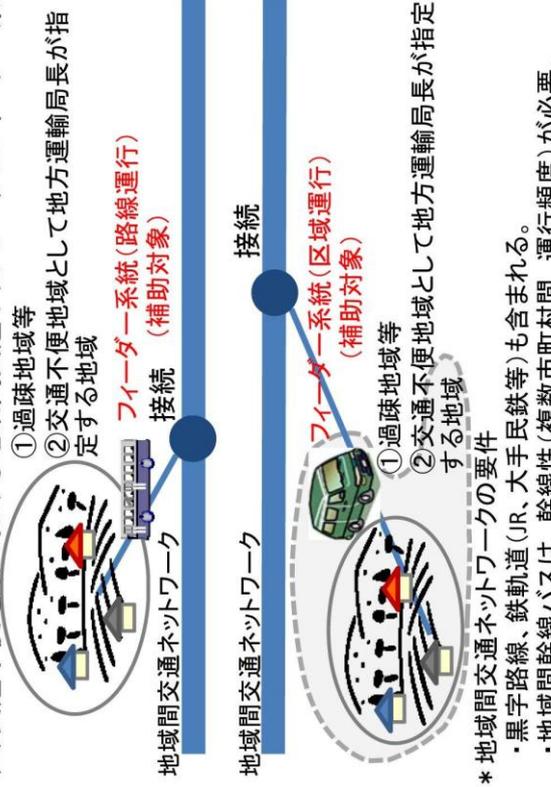
市町村の地域内ファイダー系統に係る補助対象経費は、実績値や標準値等を用いて事前に算定される補助対象経常費用の見込額と経常収益の見込額との差(ただし、補助対象経常費用の9/20を限度とする。)に相当する額とする。  
なお、計画内容に記載されたサービスが提供されなかった場合及び天変地異、燃料価格の暴騰等運送者の責によらない事象により事前に算定される収支差と実績の収支差に大幅な乖離が生じた場合に、合理性が認められる範囲内で補正を行うものとする。

### ファイダー系統のイメージ

#### (1) 補助対象地域間幹線バス系統のファイダー系統



#### (2) 交通不便地域における地域間交通ネットワークのファイダー系統



※幹線とファイダーの接続するポイントは、補助対象となる地域内に含まれていなくてもよい。

## [地域公共交通確保維持改善事業実施要領（抜粋）]

### （１）陸上交通に係る確保維持事業

#### ⑦新たに運行を開始する地域内フィーダー系統について

（実証運行等を行った系統に係る取り扱い）

地域内フィーダー系統の補助事業の基準のうち「当該補助対象期間中に新たに運行を開始するもの（交付要綱別表6. 補助事業の基準二①関係）」について、地域公共交通活性化・再生総合事業（地域公共交通確保維持改善事業による経過措置を含む。）による実証運行又は地域公共交通調査事業による1～2か月の実証調査若しくは特定被災地域公共交通調査事業による実証運行を行った系統については、あくまで実証的な調査のための運行であることから「新たに運行を開始するもの」として取り扱う。

ただし、地域公共交通活性化・再生総合事業による実証運行を行った系統については、原則として、平成24年度予算に係る本事業の補助対象期間中までに本事業の支援を活用して運行を開始するものに限る。

また、本事業について予算要望の内容が明らかとなった日（平成22年9月1日）以降に、本事業の活用を前提として実証運行を行った系統についても、本事業の支援を受けた本格運行を行うための準備として行うものであると認められることから、「新たに運行を開始するもの」として取り扱う。ただし、「確保維持改善事業の活用を前提としているか否か」「実証運行であるか否か」については、地方議会での議事録、実証運行を利用者に知らせるパンフレット等で明らかであることが必要である。

（系統見直しに係る取り扱い）

地域のニーズ等を踏まえて系統の見直しを行う場合においては、新たに運行する系統の主系統と、当該主系統と最も運行区間が重複する既存系統（新規系統の運行の開始の日の直前の1年間に運行されていた運行系統を含む。）を比較し、異なる区間のキロ程が当該既存系統のキロ程の20%を超える場合又は3キロ以上の場合、新たに運行を開始するものとして取り扱う。（系統の見直しに当たり、全区間の一部に他の道路が存在しない区間がある場合は、異なる区間のキロ程比率の算定上、当該他の道路が存在しない区間を除外することができる。）

なお、平成23年4月1日から同年9月30日までの間において、本事業の活用を前提とした系統の見直しにより新たに運行を開始するものとして取り扱うことができるものに限り、平成24年度予算に係る補助対象期間を初年度として取り扱うことができる。

（増便によるサービス改善に係る取り扱い）

地域のニーズ等を踏まえて既存系統の増便によるサービス改善を図る場合には、当該増便を行う補助対象期間の前年度中の運行内容を勘案し、当該増便に係る運行については「新たに運行を開始するもの」として取り扱う。この場合において、当該増便の運行に係る費用増とみなすことができる経費について、補助対象とする。

なお、平成23年4月1日から同年9月30日までの間において、本事業の活用を前提とした増便によるサービス改善により新たに運行を開始するものとして取り扱うことができるものに限り、平成24年度予算に係る補助対象期間を初年度として取り扱うことができる。

### 3-2. 市の計画

#### (1) 「第3次南国市総合計画『市民と築く なんこく協働プラン』」

(平成19年3月策定)

##### ①計画期間

平成18年度から平成27年度までの10年間

##### ②基本構想等

【南国市の将来像】

## みんなで築く 健康で安心な いきいき文化交流・産業拠点のまち

「みんなで築くまち」……………●市民と行政が新しいパートナーシップ体制を確立し、住む人みんなの協働で自立のまちづくりを目指します。

「健康で安心なまち」……………●災害に強い防災まちづくりや少子高齢化に対応する健康福祉のまちづくりを重点的に推進し、生涯を託せるまちの確立を目指します。

「いきいき文化交流のまち」……………●かつて土佐の政治・経済・文化の中心にあって、  
「いきいき産業拠点のまち」……………●現在では陸海空の交通要衝に位置する地域特性を生かし、活力のある文化交流、広域産業拠点のまちづくりを進めます。

##### 【土地利用の基本方針】

- ① 海・川・山・田園の豊かな自然を大切にし、水と緑に親しむ空間を確保します。
- ② 貴重な歴史遺産・景観を大切にします。
- ③ うるおいのある住環境・生活空間を確保します。
- ④ にぎわいと魅力のある中心市街地の確保・再生を図ります。
- ⑤ 農林水産業、工業、商業、観光の調和のとれた産業基盤を確立します。
- ⑥ 全市的にネットワーク化された道路・交通体系を確立します。

##### 【公共交通関連施策】

###### ○公共交通の利便性の向上

JR土讃線やごめん・なはり線、路面電車やバス路線等の公共交通については、運行の充実等について関係機関に働きかけていきます。

## (2)「南国市都市計画マスタープラン」(平成21年6月策定)

### ①対象期間

平成30年度を目標年度とする10年間

### ②都市づくりの基本方針

#### ◆広域的な産業・交流の都市づくり

恵まれた広域交通条件を生かした既存の産業拠点の拡充や大学・高専等が立地する優位性を生かした産業基盤の拡充を目指すとともに、公園緑地やスポーツ・レクリエーション環境の充実、文化活動の環境の充実、観光交流基盤の充実など、広域的な産業都市・交流都市の形成を図ります。

#### ◆利便性の高い交通ネットワークづくり

空港やI.C.の立地特性を生かし広域交通網の充実を図るとともに、道路・鉄道・路面電車・連絡バスなどの総合的な交通体系の整備を進め、都市における市民の活動や地域の交流・連携を円滑に支援する利便性の高い交通ネットワークの形成を図ります。

#### ◆高齢者にやさしい安全で安心な生活環境づくり

少子高齢化の進行に伴い、高齢者や障害者に配慮するとともに、子育て環境の充実や交通安全対策など、安全に暮らせる生活環境の形成を図ります。また、南海地震の対策、緊急情報伝達システムの確立、自主防災組織の充実、治山・治水対策等を推進することにより、自然災害を未然に防ぎ、防災性にすぐれた生活環境の形成を図ります。

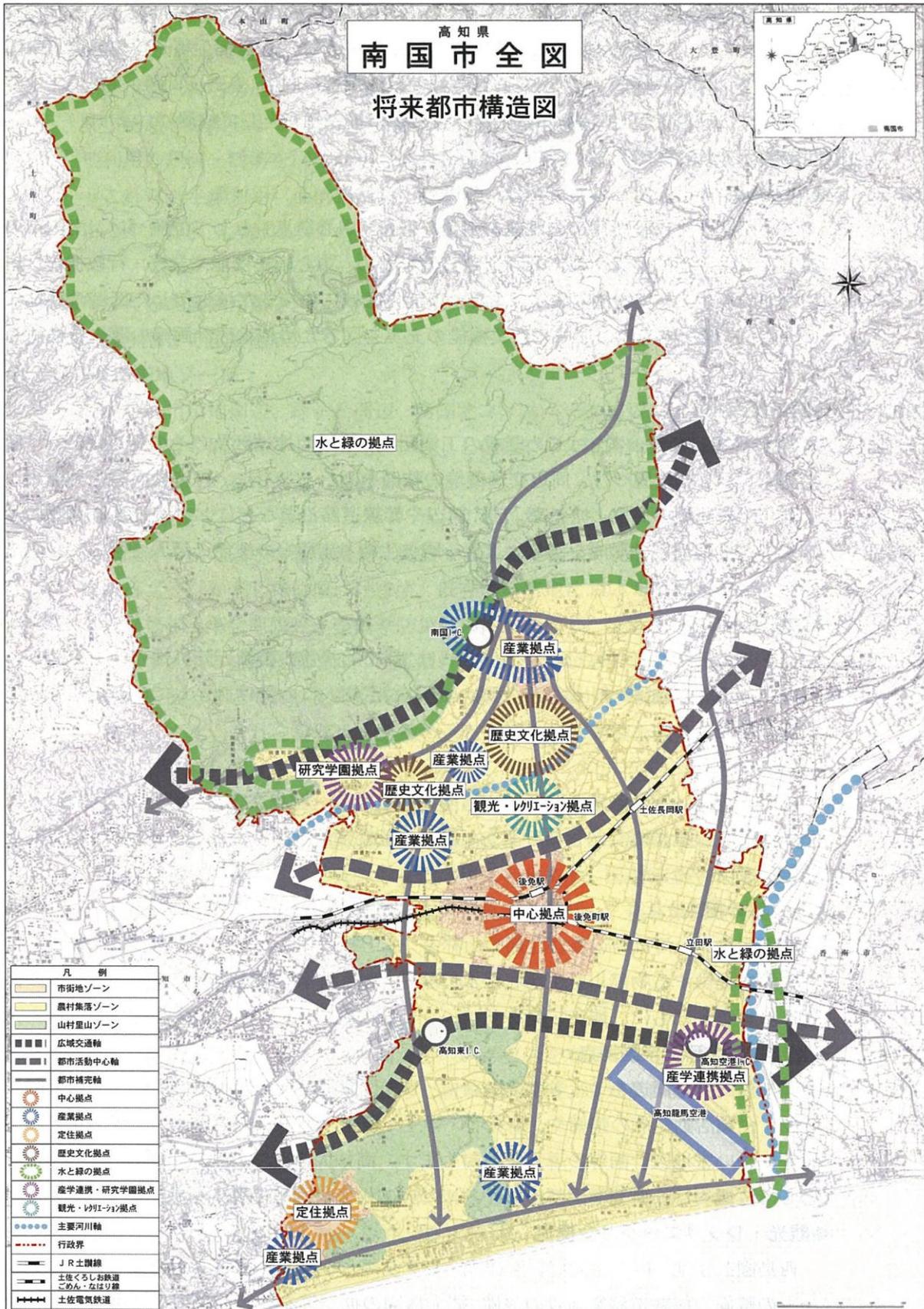
#### ◆快適で良好な居住環境づくり

調和のとれた土地利用の推進や既成市街地の再整備などによる市街地内の快適でうるおいある居住環境の形成や、集落地内の生活基盤の充実、公共公益施設や生活利便施設、大型商業施設等の必要性の検討と適正な配置による生活利便性の向上、上・下水道の整備やごみ処理対策の計画的な推進などにより、定住人口の増加を促す良好な居住環境の形成を図ります。

#### ◆自然豊かで魅力的な都市空間づくり

山・川・海の多様で豊かな自然環境の保全に努め自然と共生した環境づくりを進めるとともに、自然資源や歴史資源の観光的な活用による都市の魅力向上を図ります。また、市街地、集落地、農村環境や山林・里山の環境を生かした景観形成や環境美化を推進し、地域の魅力ある都市空間の創出を図ります。

<南国市将来都市構造図>



### ③公共交通関連施策

#### 【基本的な考え方】

##### ○公共交通ネットワークの充実

- ・都市における交流活動や地域の連携を円滑にするため、鉄道・路面電車・バス交通などの総合的な公共交通ネットワークの充実を図ります。

#### 【交通施設の整備方針】

##### ○鉄道・路面電車の利便性の向上

- ・JR土讃線、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の鉄道や路面電車においては、輸送力の強化や時間短縮など運行の充実等について今後とも関連機関に働きかけます。
- ・魅力ある中心市街地の形成を図るため、駅周辺の市街地整備事業の検討にあわせ、JR後免駅前広場の整備を検討していきます。また、JR後免駅・土佐長岡駅の駐輪場や土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線後免町駅の駐輪・駐車場を生かし、鉄道駅の利便性の向上やパークアンドライドの推進を図ります。

##### ○バス交通システムの充実

- ・鉄道駅を中心としたバス交通網の充実を図るとともに、バス路線の未整備地域においては、コミュニティバスやデマンドバスなどの公共交通の導入可能性を検討し、市全域におけるバス交通システムの再編を検討します。